

類型

E

大分県

かわい まさみ

河合 正三さん 102歳

詩吟・書道・漢詩、 趣味から広がった世界。

趣味の詩吟がはじまり

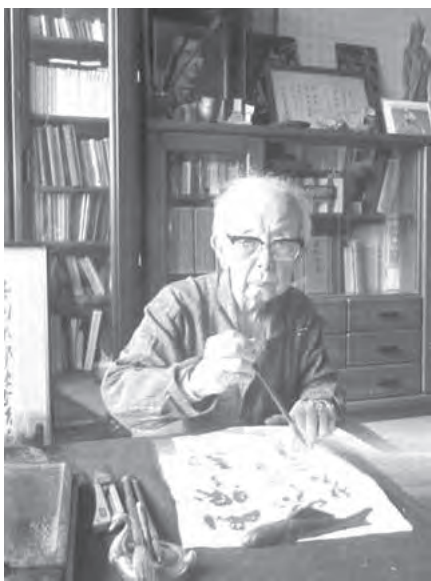
河合正三さんは、34歳の時に福岡県から大分県別府市に移住してきました。

小学生のころから声が良くと評判でしたが、40代のときに知人から誘われたのがきっかけで詩吟を始めすることにしました。

詩吟に夢中になった河合さんは、だんだん吟じている詩を「書」にしたためたいと思い、創玄書道会の首藤春草氏に師事し、書道もはじめました。さらに、詠み書きしている漢詩の意味やつくりを知っていくうちに「自分も感動を言葉にしたい」と考えるようになり、70歳で淡窓伝光霊流日本詩道会の深田光霊氏に師事し、漢詩の創作活動もはじめました。

指導者となり後進を育成指導

高齢になってから始めた詩吟・書道・漢詩ですが、その実力は多くの方面から認められており、詩吟では岳彬、書道では正風、漢詩では幽丘の雅号で創作活動



河合正三さん



エイジレス草受草に寄せた漢詩

をしています。

漢詩作活動については、県内高校や大学より記念行事での作詩依頼が入るほか、全日本漢詩連盟の大会等に出品しています。

78歳で日本吟剣詩舞振興会九州地区連絡協議会の相談役となり、自身の学習の傍ら、指導者の育成並びに研究会及び講習会の開催などに尽力してきました。

現在は月に2回、漢詩作の勉強会を開催しています。

尽きることのない探求心

60歳を過ぎてから始めた趣味活動は、40年以上精力的に続けています。また、創作活動の範囲にとどまらず、102歳となった今でも大学の漢文学通信講座を受講するなど、その探究心は尽きることがありません。

河合さんは「今後も漢詩の世界を学びながら、詩を通じて人との交流を広げていきたい。趣味も学びも、継続することが出来るのは健康であるからこそ。ウォーキングやダンベル体操を毎日続けて健康にも留意したい」と語ってくれました。